



鳴和中学校

所在地：金沢市鳴和2丁目10番60号

電話：076-252-5228 F A X：076-252-5229

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/naruwa-j/>

校長名：米田 茂

学年	1年	2年	3年	特別支援学級	合計
生徒数	216	215	206	3	637
学級数	6	6	6	2	20

	校長	教頭	教諭等					養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	特学	他					
職員数	1	1	10	10	11	2	2	1	2	1	7	48

1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

(1) 国語

- ア 話すこと・聞くことについてさまざまな活動形態を取り入れたため、発表することには抵抗なく取り組める生徒が増えたが、内容的には十分とは言えず、継続して取り組む必要がある。
- イ 文章の書き方のパターンを示しながら、論理的な展開の文章を書く場面を設定した。パターンを示せば概ね文章を書くことができるが、自分自身の言葉で表現する力が十分でない。
- ウ 漢字力をつけるため、漢字の反復練習に継続して取り組んだ結果、概ね定着したが、語彙力向上に向けての意味調べの時間を十分に確保することができなかった。

(2) 社会

- ア 都道府県の位置については、反復練習を徹底し、日本全体の姿を学習する単元で活用した。
- イ 資料を用意して読み取る場は設定したが、提示の方法はうまくいかなかった。
- ウ 時代の流れは各単元ごとに掴ませた。

(3) 数学

- ア 授業の中で計算プリントや確認テスト、単元末テストと朝学習を活用して基礎・基本の定着を図ったことで、成果があった。
- イ 生徒同士で教え合う場面、自分の考えをまとめる場面を授業の中で設定してきたが十分とはいえず、これを継続して取り組む必要がある。
- ウ 関連している既習内容の復習を取り入れながら授業を進めてきたが、生徒の理解には個人差が見られた。
- エ 身近な題材を利用し、具体的な事象に即して解決する課題の導入については、今後も取り組んでいく。

(4) 理科

- ア 計算、記述、作図、グラフ等の問題を重点項目とし、授業の中の帯時間に戻り繰り返し練習させ、基礎を身につけることができた。
- イ 実験器具等の整備が不十分なため、顕微鏡や実験観察等の活動においてあまり充実させることができなかった。

(5) 英語

- ア 聞く力や話す力については、英語を使ったやりとりを基本に授業を構成し、英語を多用することで、成果があった。
- イ 授業の始まり等の帯時間を使って、文型の口頭練習を継続して行ったことで、語順を中心に基本文を身につけることができた。
- ウ 書いて表現する力をつけるため、条件作文等で、例を示しながら、段階を踏んでの指導に取り組む、概ね基本的なものは身につけることができた。

2 学力等の現状分析

(1) 国語

- ア 改まった場での発表は概ね良好であるが、普段の授業での話す力が不十分である。
- イ 書く活動は、条件やキーワードを提示すれば抵抗なく書くことができるが、やや個人差が見られる。
- ウ 読む活動は概ね良好である。

(2) 社会

- ア 都道府県の位置は、後々までも定着しているとは言い難い。
- イ 資料を選択したり、必要なことを資料から読み取ったりする力はついていない。

ウ 年表をもとに時代の特色を読み取ったり各項目を関連づけて特色を述べたりできるようになっていない。

(3) 数学

ア 数と式の分野では、基礎的な計算力等は定着してきていると思われるが、活用する力は十分とは言えず、応用問題ではミスが目立つ。

(4) 理科

ア 化学反応式等のモデルについては、正確に表現する力がついている。

イ 計算問題については計算式をたてられない生徒が多い。

ウ 実験内容の作図がかけない生徒が多かった。

エ 記述式問題についてはキーワードを押さえた表現ができていない。

(5) 英語

ア リスニング問題において全体的には概ね良好であるが、少し長めのまとまった英文を聞いて理解する力はやや乏しい。

イ 慣用的な言語知識があまり身に付いていない。

ウ まとまった対話文を読んである程度の理解はできるが、読み取った内容について表現する力については課題がある。

3 学力向上の取組

(1) 国語

ア 手本となる文例を示したり、書いたものを相互評価させながら、書く力の向上を図る。

イ 音読をさまざまな形態で取り入れ、定着を図る。

ウ 語句の意味調べを家庭学習にし、授業で語句の意味を確認させる。

(2) 社会

ア 学習課題について仮説を立て、それを根拠づけるためにどんな資料が必要かを判断し、資料の約束事(表題、出典、凡例、単位)を確認し、読み取るという一連の流れの中で、資料読解の学習を進めていく。

イ 学習内容の定着を図るため、地図にまとめたり穴埋めワークをしたりする課題を継続的に家庭学習にする。

ウ 授業の学習課題に対して、まとめを簡単に書いたり、次時の学習課題について仮説を立てたりする宿題を出し、発表させたり提出させたりする。

(3) 数学

ア 授業の中で計算プリントや確認テスト、単元末テストを活用し、きめ細かく把握した一人一人の理解度を授業に生かし、基礎・基本の定着を図る。

イ 生徒同士で教え合う場面、自分の考えをまとめる場面を通して、思考力・判断力・表現力の育成に努める。

ウ 関連している既習内容の復習を積極的に授業に取り入れ、理解の深化を図る。

エ 課題の開発に取り組み、身近な題材の中から、主体的に課題を解決する態度の育成を図る。

オ 毎時間、家庭学習課題を出し、点検を行ったり、計画的に小テストを行ったりしてきめ細かな指導を行う。

(4) 理科

ア 基本的な計算問題の反復練習をする。

イ 科学的思考力を伸ばすため、実験レポートで気がついたことや感想を書かせ、良いものについて掲示して啓発する。

ウ 記述式の問題を解く練習を多くする。

エ 家庭学習課題として、ワーク、プリント等の反復練習を課し、点検を行う。

(5) 英語

ア 聞き取る力の向上のために、できるだけ多くの生徒の表現を聞く場面を設定したり、授業で意味のある英語でのやりとりを位置づけていく。

イ まとまった量の英文を聞き取ったり読み取ったりした際に、それについて話したり書いたりする活動に結びつけていく。

ウ 語彙や表現を定着させるために、授業の始まりの時間を使った帯時間学習を行う。

エ 家庭学習に結びつくようなノート指導を徹底させる。

4 その他の取組

(1) 家庭学習が充実するよう、課題を各教科で工夫したり、シラバスを家庭に配布し知らせる。

(2) 教師の授業力向上のために「鳴和塾」(ミニ研修会)や校内研修を充実させる。